



「旦那さんには不満はないんですか？」
 「お恥ずかしい話なので…」

めちやくちやにされたい…
 解放されたい…
 そして、売春人妻板への投稿…

全ては一件の相談から始まった
乳首イキするドM人妻調教
 私、めちやくちやにしてほしいんです。
優美29歳

っんああっ…!
 ひっ、あっ、んお
 はひっ!
 あっ、あああんっ

バシツ、バテ

許し、いひいつ!

趣味で人妻ハツカーをしている俺は
仕事の合間に良さそうな人妻がいないか
常にチエツクを欠かさない…。
そうそう当たりは出ないが
主婦の集まる匿名の掲示板なんかも
もちろんチエツクする。

(新しい書き込みは…ん?)

『めちやくちやにしてほしいです』
ホ別だの母だのって隠語が飛び交う中
とんでもない欲求に「です」を付ける女…
俺の想像力が妙に掻き立てられ
思わずそのタイトルをクリックする。

するとその掲示板の本文も、
タイトルと同じ：
『めちやくちやにしてほしうです』
こりや、釣りか？
…いや、違う…か？
人妻ハツカーである俺の何かが
こいつにメッセージを送れと騒ぐ。

俺は「相談に乗ります。メールアドレス」と
試しにメッセージを書き込んだ――



『メッセージありがとうございます。
でも、ごめんなさい。
ちよつとしたイタズラのつもりでした』

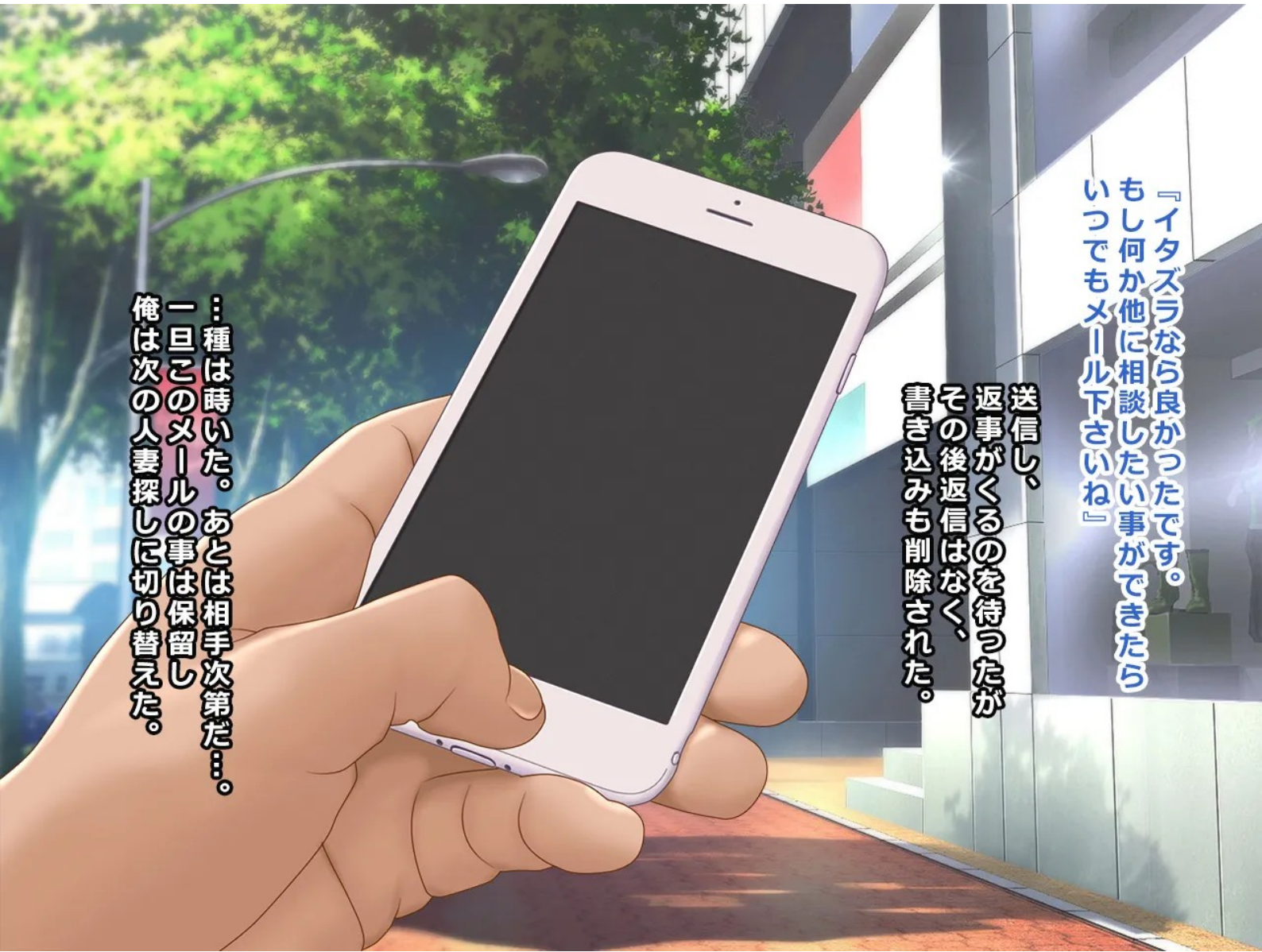
来たメールにはやけに丁寧な謝罪だけ。
だが俺の嗅覚は端的な文章に違和感を持つ。
イタズラなら無視するだけでいいのに
わざわざこんな返事を送ってくるのは
何か訳があるはずだ…。



『イタズラなら良かったです。
もし何か他に相談したい事ができたら
いつでもメール下さいね』

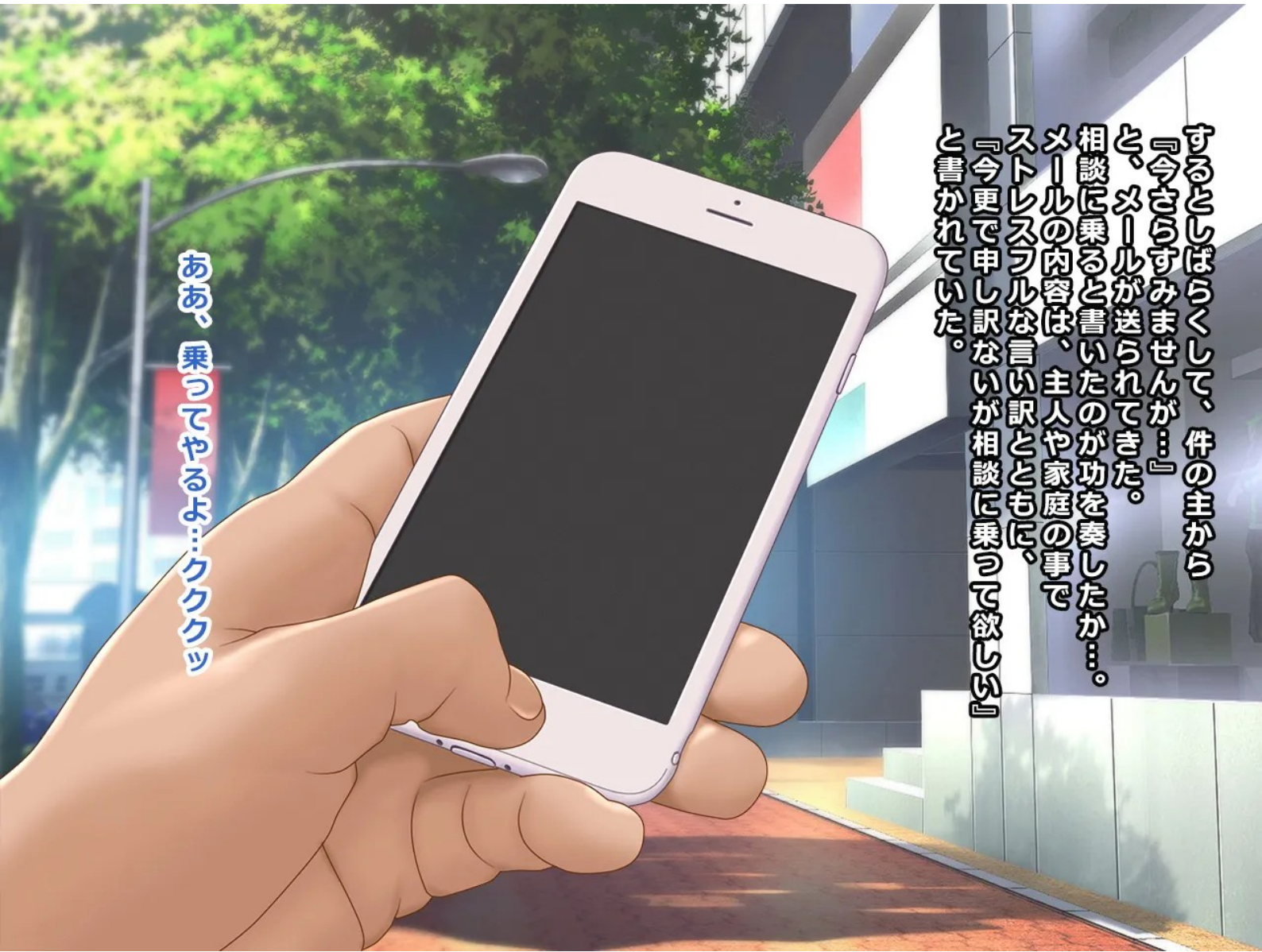
送信し、
返事がくるのを待ったが
その後返信はなく、
書き込みも削除された。

…種は蒔いた。あとは相手次第だ…。
一旦このメールの事は保留し
俺は次の人妻探しに切り替えた。

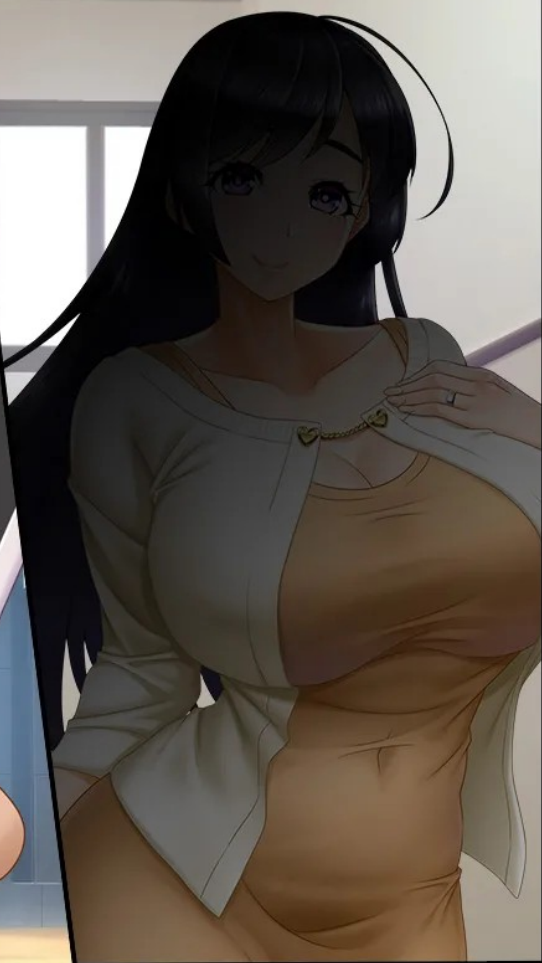


するとしばらくして、件の主から
『今さらすみませんが…』
と、メールが送られてきた。
相談に乗ると書いたのが功を奏したか…。
メールの内容は、主人や家庭の事で
ストレスフルな言い訳とともに、
『今更で申し訳ないが相談に乗って欲しい』
と書かれていた。

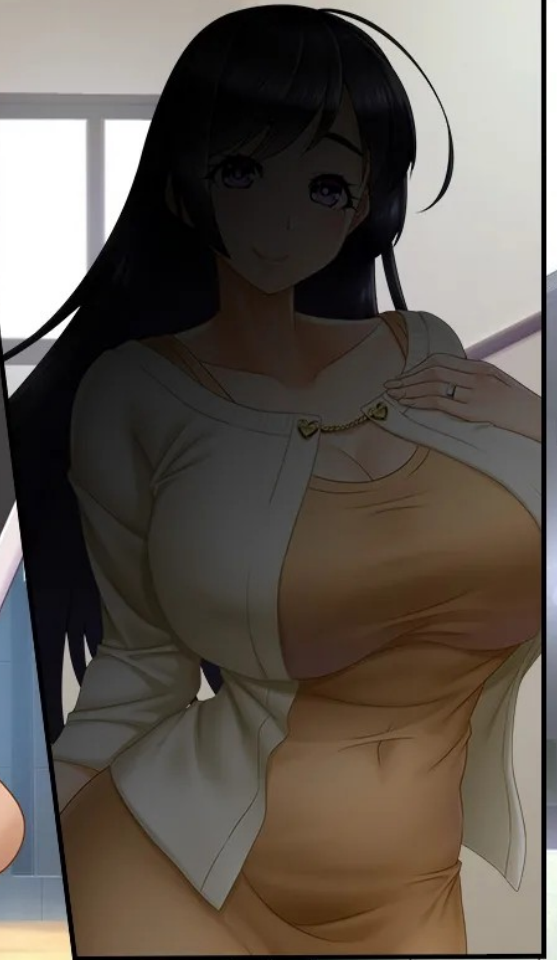
ああ、乗ってやるよ…クククッ



返事を返すと、すぐに返信の着信が鳴る。
メールの主の名前は『優美』…。
悩みの内容の前に、自分が置かれた状況が
ツラツラと説明書のように書かれていた。
三十歳も年上の旦那と結婚している事…。
旦那の一目惚れで結婚に至ったこと…。
思いもよらぬ資産家だったことなど…。

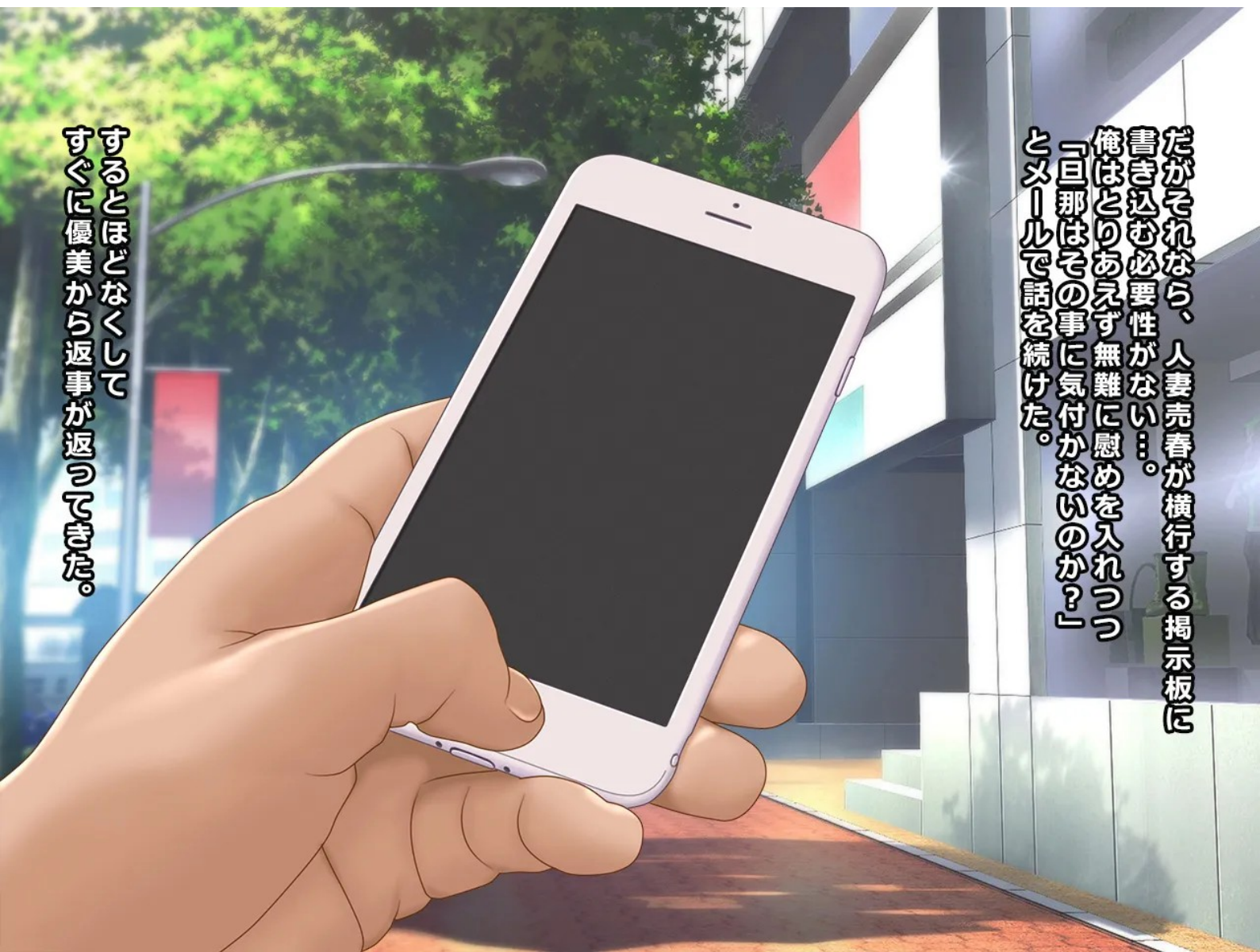


しかし親戚は玉の輿に乗った優美を
遺産狙いだと後ろ指を指してくるらしい。
一般家庭の出の優美は旦那のいないところで
マナーや振る舞い方、ちよつとした事でも
注意と題して親戚いびりを受けている...。
どうやら、これが掲示板に書き込んだ
ストレスの原因...と、説明されていた。



だがそれなら、人妻売春が横行する掲示板に
書き込む必要性がない…。
俺はとりあえず無難に慰めを入れつつ
「旦那はその事に気付かないのか？」
とメールで話を続けた。

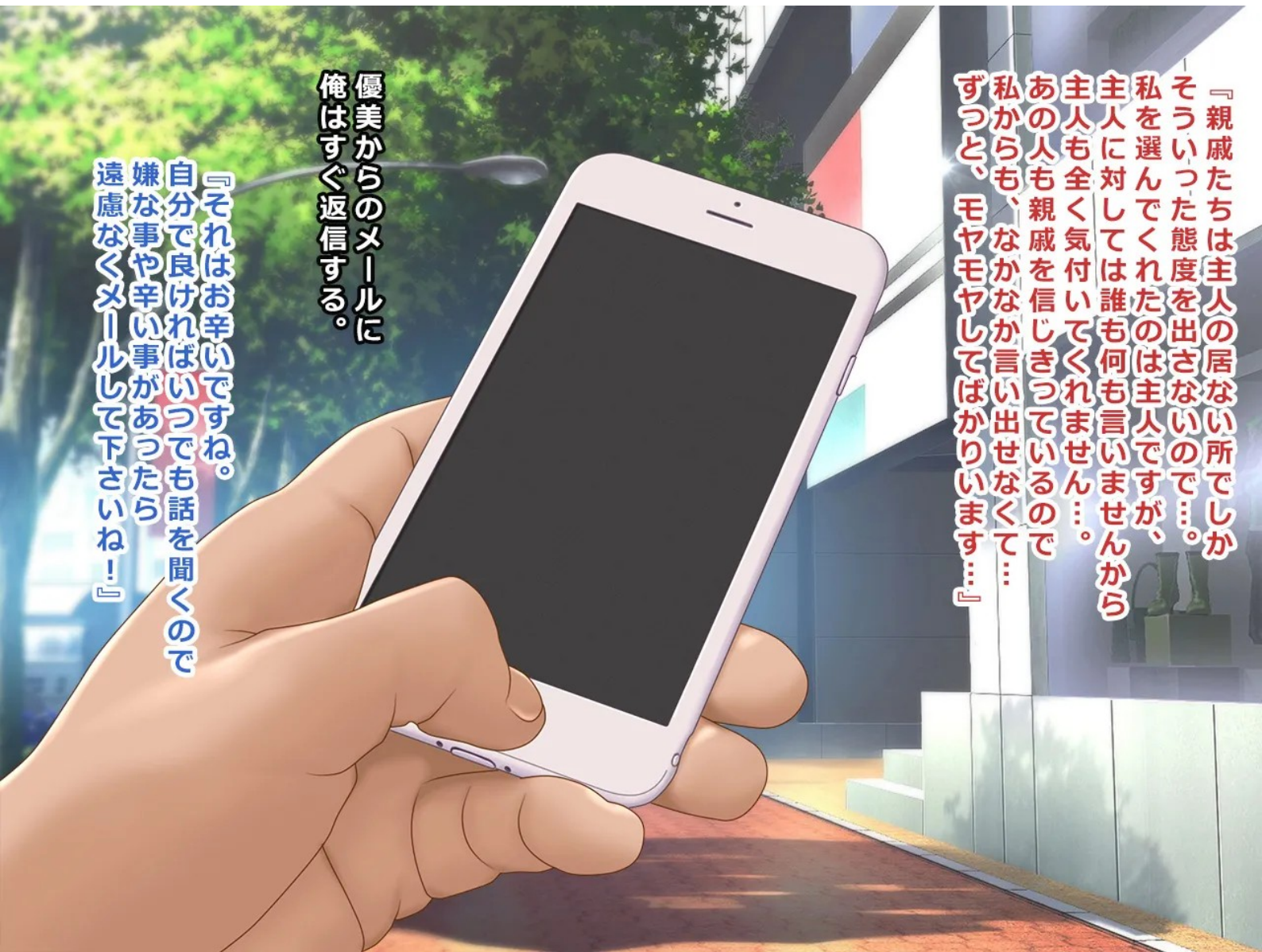
するとほどなくして
すぐに優美から返事が返ってきた。



『親戚たちは主人の居ない所でしか
そういつた態度を出さないのです。私
私を選んでくれたのは主人ですが、
主人に対しては誰も何も言いませんから
主人も全く気付けてくれません。あ
あの人も親戚を信じきつていたので
私からも、なかなか言い出せなくて…
ずっと、モヤモヤしてばかりいます…』

優美からのメールに
俺はすぐ返信する。

『それはお辛いですね。
自分で良ければいつでも話を聞くので
嫌な事や辛い事があつたら
遠慮なくメールして下さいね！』

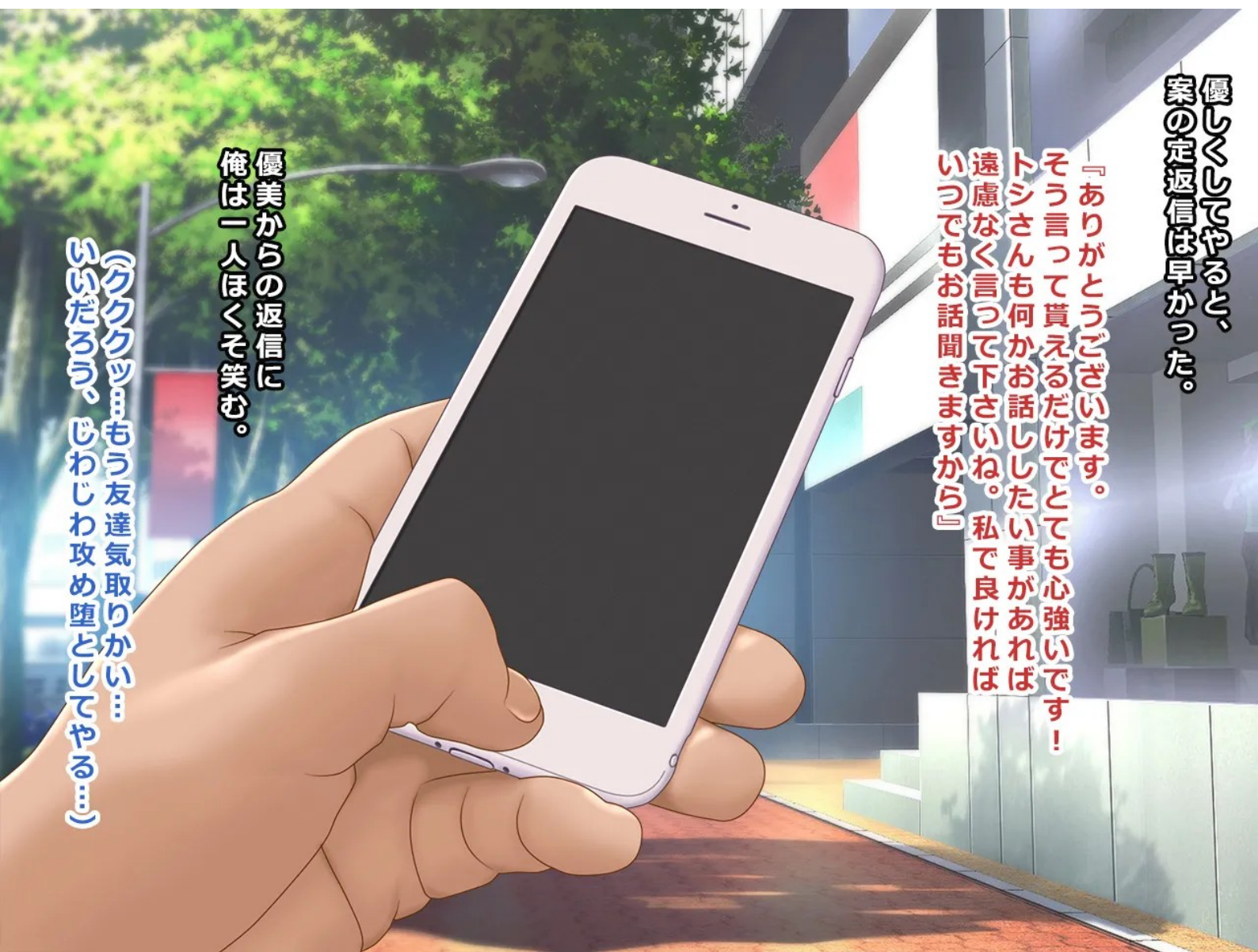


優しくしてやると、
案の定返信は早かった。

「ありがとうございます。
そう言って貰えるだけでとても心強いです！
トシさんも何かお話ししたい事があれば
遠慮なく言っして下さいね。私で良ければ
いつでもお話聞きますから」

優美からの返信に
俺は一人ほくそ笑む。

（クククツツ…もう友達気取りかい…
いいだろう、じわじわ攻め堕としてやる…）



優美とやりとりして数か月…。
その後も度々愚痴のメールが届き、
その度に俺は優しい返事を繰り返していた。

(…そろそろ頃合いか！)

くだけたメール具合から
俺はデリケートな部分へと誘導した。

『旦那さんには不満はないんですか？』

さすがに数分の間は開いたが
今まで構築した相談役の立場もあってか
しばらくして優美から返事が返ってきた。

「お恥ずかしい話なのですが…」

から始まる文章には
旦那の性癖が書き込まれていた。

「胸でするのを、いつも迫られて…
そこを出してしまつて、いつも満足して…」

『ご高齢ですご、
2度目は難しいのでは？』

『そうなんです…私はもっと
夫婦として、普通にして欲しいのですけど…
やつぱり立場的に、強く言えなくて…。
本当はもう、何もかも忘れるくらい
めっちゃくちやにされたいのに…』

(…きた…ここが攻め時だ…)

俺は若者ばりの速さで返信を打ち。

『どうしてめちゃくちゃに
してくれないんでしょうね?』

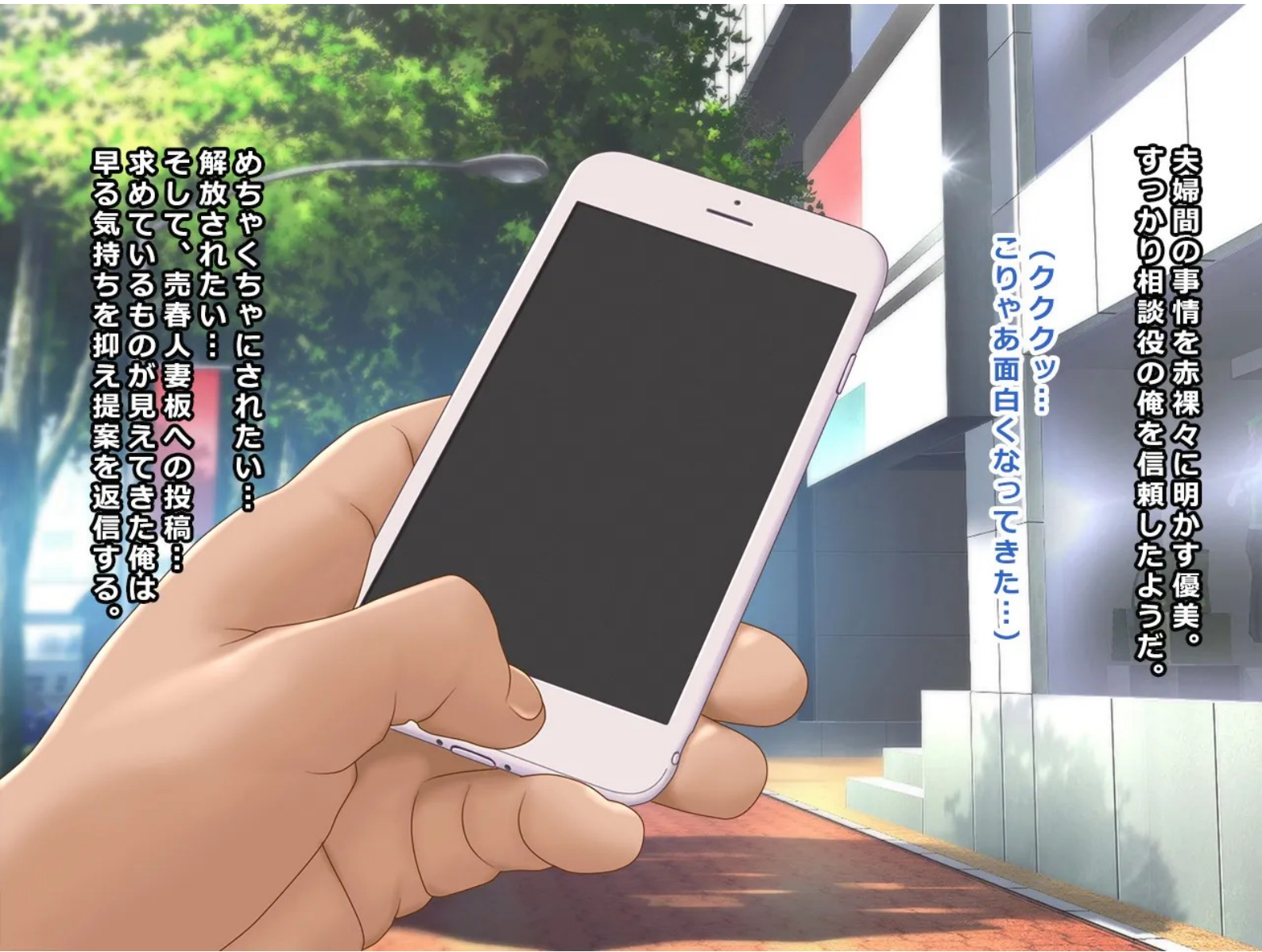
『主人にも、私のイメージがあるんです…
財布を拾ったのが出会いのきっかけでしたし
私の真面目な印象を、大事にしてくれて…
だから、私が物足りないって思ってるのを
少しも気づいてくれなくて…。』


私なら、何をされても平気だから
とにかく最後までして欲しい…。
今の自分も、何もかも忘れられるくらい
もつとめめちゃくちゃに、激しくされて、
今の苦しみから、解放して欲しいのに…。』

夫婦間の事情を赤裸々に明かす優美。
すっかり相談役の俺を信頼したようだ。

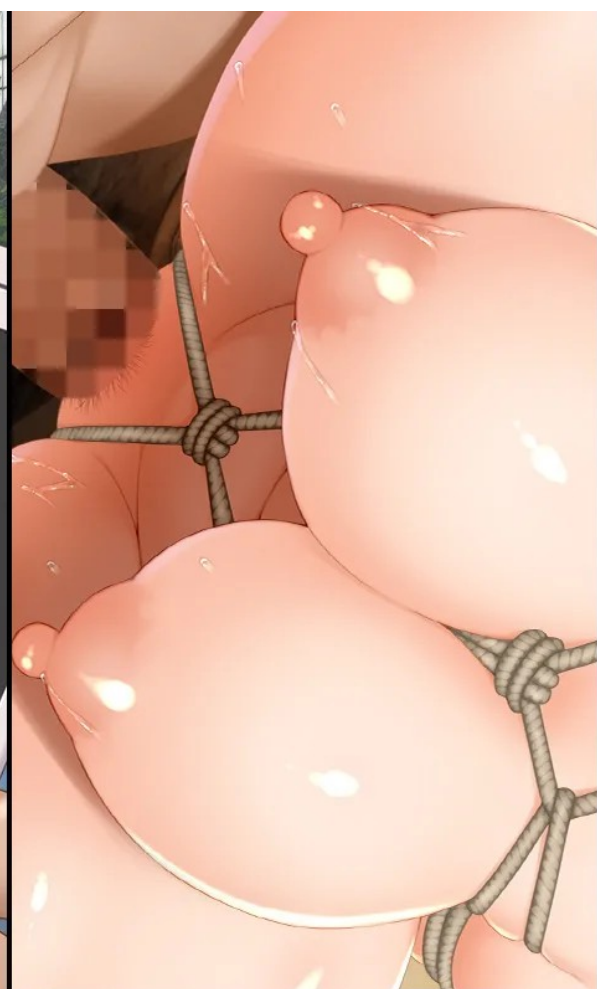
(クククツツ)
ごりやあ面白くなってきた！)


めちやくちやにされたい！
解放されたい！
そして、売春人妻板への投稿！
求めているものが見えてきた俺は
早る気持ちを抑え提案を返信する。





『現実から離れたかったのであれば
私に協力させていただけませんか？
調教、という遊びはご存知でしょうか？
実は私、そういう仕事をいたしました
もし興味がありませんでしたら
あくまで体験する程度にいかがでしょうか？
現実から解放されるほど
非現実的にめちゃくちゃにされて
きつとスッキリできると思えますよ？』

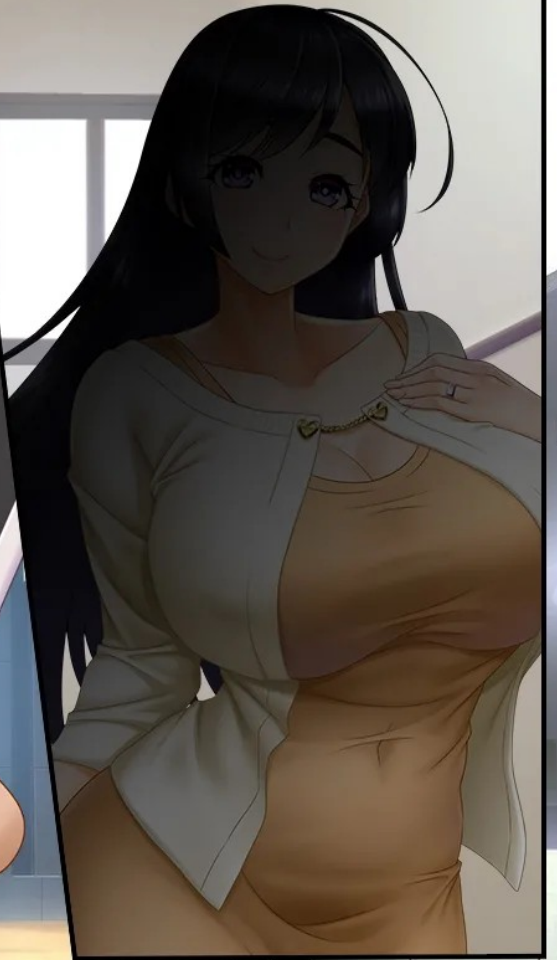




これは賭けだ…なぜなら俺は
優美がDMであると確信したからだ。
あとは、本人の積もり積もった欲求次第…。
やはりそれを機に返信は途絶えたが
数日後、再びメール着信が鳴った。

『先日の件、お願いできますでしょうか。
めちやくちやにして欲しいです』

その短い文面を見て俺はほくそ笑む。
それから何度かメールをやり取りし
ついに俺と優美が実際に会う日が決まった。



あ、あの…はじめまして。
いつもお世話になってます…
メールした、優美です…

少し遅れて優美が
指定の席に着く。
俺の様子を伺って
わざと遅れたのだろう。
緊張の面持ちに俺は
笑顔で返事を返す。

はじめまして、トシです。
こちらこそ、いつも
お世話になってます





(…デカいな…
張りより柔らかかな乳…
服の上からでもわかる弾力…
こりや旦那がパイズリに
夢中になるわけだ…
俺も一目惚れしたぜ…クククツ)

人当たりが良さそうに
振る舞いつつ
笑顔で細めた視線で
俺は優美を値踏みする。

あちゅ

あちゅ

（おまけに顔も悪くない！！
これは想像以上に楽しめそうだ！！）

軽い挨拶も終え、
多少の会話を交わす。
そして俺は、自然な流れで
本題を切り出した。

では、近くのホテルを
取つてあるので
そちらに向かいますよ。どうか。
家庭のある方にお時間を
お時間を取らせるわけに
いきませんからね



ホ、ホテル！

一瞬で緊張し、優美がわずかに怖気づく。

ええ。どうしました？大丈夫ですか？

あ、は、はい！
そう、ですよ！
きつと、普通！

!!

もし気が変わったなら
今日はお帰り頂いても
大丈夫ですよ。
私も単なる世話好きの
悪い癖ですから、
別に咎めたりは
しませんので！

優しい笑みを見せると、
優美の瞳が迷いに揺れる。

迷って、ますか？

この問いに答えはない…
だが、沈黙こそが
迷いの証拠だ。

では…

俺は携帯を取り出し
メールを送る。

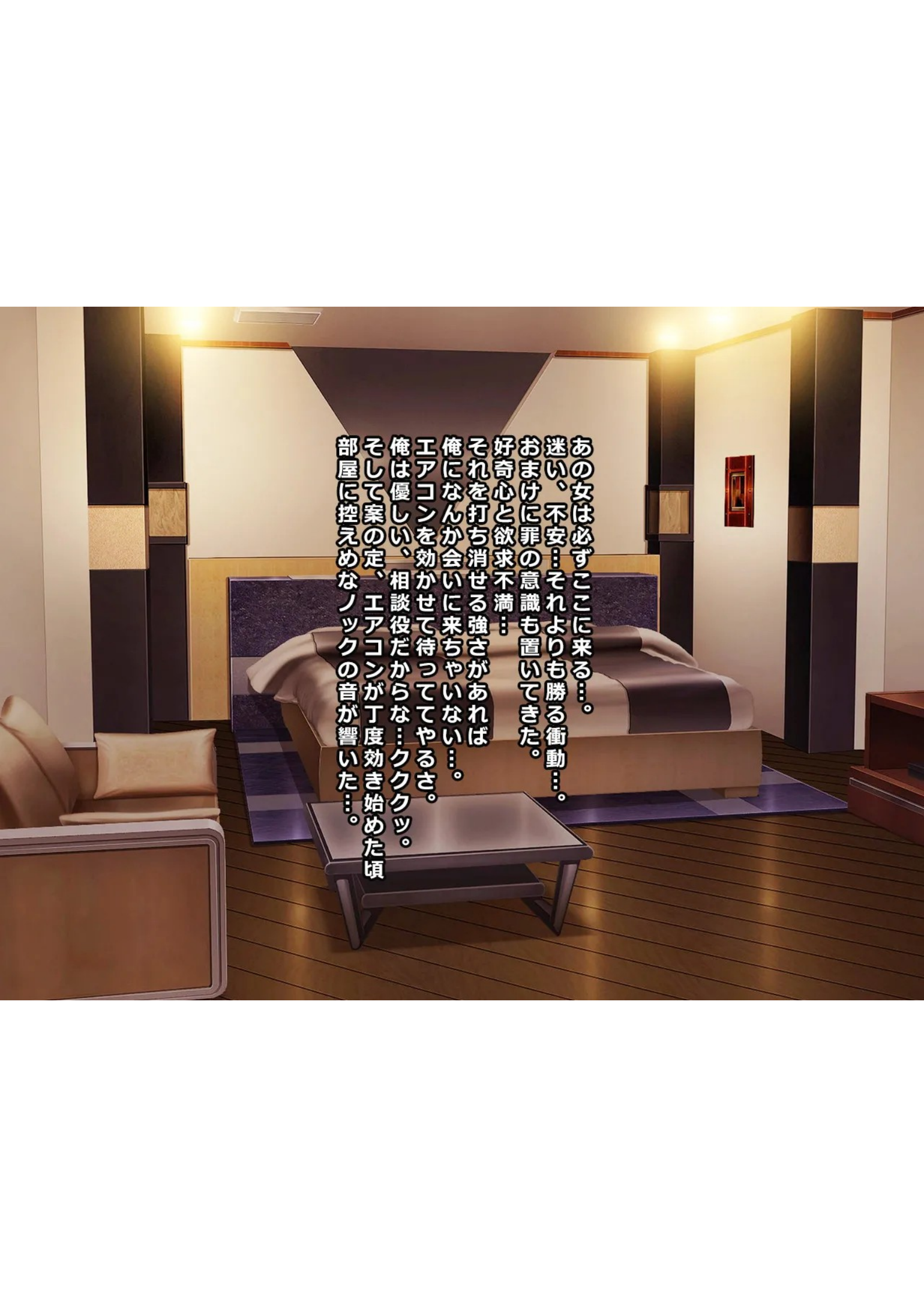
今、ホテルの場所を
メールしました。
もしお気持ちが決まったら
いらしてください
私のはのんびり
待ってますから…

…え…
あ、あのっ…!!

キャンセル料を
満額取られるのも癪だし
いらつしやらなくても
くつろがせて
いただきますので、
お気になさらずに…

あ……

啞然とする優美をおいで
俺は店を後にした。



あの女は必ずここに来る…。
迷い、不安…それよりも勝る衝動…。
おまけに罪の意識も置いてきた。
好奇心と欲求不満…
それを打ち消せる強さがあれば
俺になんか会いに来ちやいない…。
エアコンを効かせて待つてやるさ。
俺は優しい、相談役だからな…クククッ。
そして案の定、エアコンが丁度効き始めた頃
部屋に控えめなノックの音が響いた…。

待ってましたよ、奥さん

……

どうしました？
不安そうな顔して……
まさか怖気付いたお詫びに
断りを入れに来たんじゃ
ないですよ？

……

ドキ
ドキ

非現実にもちやくちやにされて
今の自分を忘れたい！
そう願ったのは
奥さん、あなたでしたよね？

それ、は……



ククツ、それでこそ
世話のしがいがある。
では早速、調教の
非現実を味あわせて…

つ、ま、待って…
先に、シャワーを…

必要ないですよ。
いい匂いだ…
もう家で浴びて
きてるんでしょ…?

…

ドキ!

クククツ、やっぱりね…。
奥さん、本当は
期待してたんでしょ…?

では始めましょう。
服を脱いでください

そんな、急には…

ほら、さっさと脱いで…
それとも、また私に
無駄な時間を
過ごさせるんですか？

で、ごめんなさい…
でも…

もう始まつてるんです…
あなたの解放は…
何もかも忘れて、
めちやくちやにされに
来たんでしょ…
さあ、楽になりましょう

つ…
ほう、あは、い…



優美は一度息を飲み、
覚悟を決めたように
呼吸を止めたまま
服を脱ぎ始めた…。

ンフ、いろいろですねえ…

…そ、そんなに、
見ないで、ください…

いやいや素晴らしい。
もつとよく見せて…
いや勿体無いですねえ…
ソソられますよ

う、うう…
は、恥ずかしい…

胸もお尻も大きいし、
くびれた腰もいい…
パイズリだけなんて
本当に勿体無い…

や、やめて、ください…
お、お願いですから、
早く…

あれ？
もういじめられたくて
待ちきれないんですかあ、
奥さん…

アッ

アッ

そ、そんな訳じゃ…

クククッ、
どうなんですかねえ…

ほ、本当にそういう訳じゃ…

ククク、
分かりました…では
全部脱いで素っ裸に
なつてください。

…え…

先を急ぎたいんで
しょうか？
ほら早く…

優美はまだ何か
言いたげに俯いたが
俯いたまま、俺に従い
下着を脱ぎ始めた。



…これ、で…
い、いい、ですか…?

クク、やっぱり…
いゝおっぱいだ…

…う、いゝや…

こりやあ、
おっぱいフェチの
変態ジジイが
一目惚れする訳
ですなあ…ククク

っ、その事は、
言わないで…

おつと、そうでした…
家庭のことは忘れて
欲求不満を解消したに
来たんだもんねえ

っ、そんな言い方…

でも本当の事…
そうだろ？ なあ？

語気を強めた俺に
優美はハツとする。

もう始まつちまった！
あんたもう裸なんだ
今更否定はできないよな？
ねえ、奥さん…

そ、そう、ですけど…
裸、ですけど…

やめてパイズリ生活に
帰るか？ ん？

い、嫌っ…それは…
嫌、です…

なら足を開いて
ベッドに横になりな…
満足させてやる…
めちやくちやになれるように

恐怖と不安を抱え、
優美はベッドに上がる。
そして満足という期待に
引きずられるように
おすおす、ゆっくりと、
白い太腿を開いた。



…こ、これで、
いい…ですか…？

ああ。ばっちりよく見えますよ…
奥さんの綺麗なピンクのおマンコ…
飢えたヒダヒダまでねえ…ククク

い、いやあ…み、
見ないで、ください…

クククッ、閉じるなよ…。
おい、もう興奮してるのか？
乳首、ピンピンになってるぜ？
…え？ …や、
こ、これは…

恥を指摘され、不意に陰唇が閉じた。
すると合わさった下の唇から
つう…と粘液がこぼれ落ちる。

ククッ、下の口がヨダレ垂らしてるぜ？
やっぱり興奮してるじゃねえか。ククク…

あっ、これはっ…
ち、違うのっ…!!

何が違うんだ？
違うなら広げてみるよ

ッロ…

ッロ…

う、ぐ…
い、今、広げたら…

ほら…調教されたいんだろお？
満足したいなら、
言うこと聞かなきゃなあ

ふ、ぐう…うう…
いや…あっ

どろり…

溜まっていた欲が
股間から溢れ出した。

クク、裸見られただけで
乳首おっ勃てて
こんなに濡らしやがって…
この淫乱めっ

流出口を眺め罵倒し
股間に息を吹きかける。

んあっ…!!

んあっ

ああっ! 違う、
違うのおっ…!!

何感じてんだ?
やっぱ淫乱じゃねえか

んあっ

卑下されると優美は体を揺らし
愛液がとろとろ流れ出す。

やらしいヨダレ垂らして
何が違うんだ?
本当はどうして欲しい?
ほら、言葉よ

っ、それ、は…

クククツ…淫乱のくせに
恥ずかしいか？
ヨダレが出るほど
欲しい物があるんだろ？

…う、うう…
ハア、ハア…
う、く…

…言わなきゃ、
ずっとお預けだぜ？

そっ、そんな…！

明らかだろるたえだす優美に
俺はしたり顔でほくそ笑む。



別にだんまりでも
俺は構わないぜ？
代わりに、ずーっと
このままなだけだ

…あ…うう…
そ、そんな…

物欲しげに体を揺らす優美な
俺は耳元でねっとならと囁く。

…どうして欲しい…
触って欲しけりや…
何をどうして欲しいのが…
ちゃんと言いな

ひっ、ああっ…!!
わ、私をつ…私を、
めちやくちやつ
め、めちやくちやつ
して、下さいいつ…!!



へえ。めちやくちや、ねえ…

そう…!!
めちやくちやにつ
めちやくちやにしてえっ!!

おいおい、ご主人様に対して
何だあ、その口のきき方は?
あ?

あ…ご、ごめんなさいっ

まだわかって
ねえようだな…
おねだりの仕方も、
自分の立場も…



そんなご主人様の手を
煩わせる様な奴はは
お仕置きが必要だよなあ？

そ、そんなっ…
お、お仕置きだなんて…

ほら、ご主人様に向かつて
お仕置きして下さいって
お願いしろよ…

う…ぐう…

…めちやくちやに
して欲しいんだらう？
どこをめちやくちやに
するんだ？ なあ？

してやるよっ、
めちやくちやにさあつ！
だから最後のチャンスだ…
ほら、お願いしてみな？
ご主人様あつて…

っ、う……
い、言えません…

おいおいおい…
ビチヨマン広げてっ
今更恥ずかしがつてんじゃ
ねえぞ淫乱っ!

あひっ…!

ビクッ

っ…!

…そうかそうか…
よくわかつた!
どうやらただの
お仕置きじゃなくて
キツいのが欲しい
みたいだな、えく?

お前のぐちよマンが
もつとぐちよぐちよに
なるくらいに、
キツいのが欲しいんだろお

代弁してみせると、
ようやく理解した優美は
うっとりとした救いの
笑みを浮かべた。



お：お願いしませんが主人様…！！
ゆ、優美に…お仕置き、
して下さいっ

クククッ…。

最初からそう言やあ良いんだよ。
おら、どうぞされたいんだ。言え

クククッ、
それじゃあ仕方ない…。
まずはおっぱいから
お仕置きしてやるよ

…お、おっぱいも、
クリトリスも…
お、おマンコもっ…！！
め、めちやくちやに
全部、もみくちやに
して下さいっ…！！

ッ



待ちわびた乳首は硬く
軽く触るだけで優美は
甲高い声を上げる。

フツッ
フツッ
フツッ

ああんっ！
あっ、おっぱいいい…！

どうだ淫乱？
気持ち良いか？

ああうっ…！ ん、ああっ
キモチいい、ですうっ…！
あっ、あっ…！
んいつ！ あああああっ！

指で弾くりズムで
優美の体も跳ね上がる。

フツ、乳首だけは
開発されてるのか…
変態め、ほら、
感じてみせるよ？

っあ…や、はっ…
あ、くうんっ！

弾くだけでこれかよ…
なら…

あ
♡



捻りあげると優美はそれだけで
背をのけ反らせ絶頂してしまった。

乳首だけでいったのか。
ド変態だな、この淫乱がっ

ハッハッハッ
ハッハッハッ

ああっ、ん、ごめんなさっ…
ご、ごめ、んんっ…
ごめ、なさいひっ…

俺に罵られ、余韻に
体を震わせる優美。
構わず俺は、勃った
乳首にしゃぶりついた。



あつ、あつ…んんうっつ！
ありがとうっ、ん、ああつ
ございまっ…すっ、んああつ！

喘ぐ優美をチラチラ見ながら
俺は乳首の先っぽを舌先でつつく。

あつ、んんうっつ！
先っぽ、あつ、キモチいっ

さらに乳首全体を口に咥えると
「リリ」とした乳首を前歯で挟む。



んあつ、あああああつ！
イクつ、イクうううつ！

ズワッ
ズワッ
ズワッ

ピクンと体を硬直させ
絶頂する優美。
これだけエ回いなり、
おそろくもう！
俺は体をスラし優美の
股間に鼻を近づけた。

ハハ

ハハ



スニッ、スニッ...

こりゃあ凄い！
スケベなメス犬の香りが
ブンブンしやがる...

ああっ、嗅いじゃ...っ

んんん

クククッ、
スケベなメス犬の
やらしいメス汁が
シーツにまで垂れてるぞ

スニ
スニ

ああっ...ごめんなさっ
ごめんなさいっ...

本当に申し訳ないと思ってるのか？
後から後からヤラしいメス汁が
マンコから溢れてきてるぞ？

ああっ…ごめんなさい…
はしたない優美を
どうか、許して下さいっ…！

仕方ないな。じゃあ俺が
直接、舐め取ってやるよ

俺は濡れそぼる穴に
舌を伸ばし…



あああつ...!!
舌がつ、ご主人様の舌あつ
あんつ、あつ、あああつ!!

れろ
れろ
れろ

クククツ、嬉しいかよ...
マンコ舐められるのが
そんなに...

あ、はあつ...
嬉しい、ですうつ!!
クンニ、久しぶり!!
あ、あ、ああうつ!!

やらしいメス汁が
溢れてくるぜ...
全部舐めとつてやるよ...
れろ、えれれれ...

ま

つ、ん...あつ、あつ!!
キモチいいですうつ
ご主人様あつ...
あつ、あああつ!!
ごまじ、吸つて、
あああつ!! イイいつ!!

ああんっ、うんっ……

ああんっ！ 優美のお汁が
ご主人様に、
吸われてますうっ……！
あっ、あっダメえっ
私っ、もうっ……

ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ……！！

ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ

あっ、はあっ、んっ
いつちやうっ、
いつちやいますう……！

クククッ、赤の他人に
マンコ舐められるのが
そんなにいいか？

はっ、うんっ！
らめえっ、ああっ！
も、もお、おかしく
なりそうですうっ！
はああっ、だめっ、
我慢でき、あぐうっ！

んっ

ならそのまま
いつちまいな！

ああんっ、うんっ……

太ももを震わせ三度目の
絶頂を迎える優美。
だが、休ませてやる気は
さらさらない…

おいおい、何だあ
このクリトリスはあ？
れるん…

ひあつ！
いきなり舐めちゃ
あつ、ぐつ…んはあつ

散々いつて皮が
剥けるほどピンピンに
勃起してるじゃねえか…
れるれる

ひゃ、あああんっ！
そんな、激しっ
…んっ、くううっ…
っあ！ あっ、あつ！

ククツ、キモチいか？
あ？

いつ、ひいいつ！
キモチいつ！
キモチい、ですう！
んん、あああん！



こんなにパンパンに
クリ膨らませて…
スケベめ、
恥ずかしくないのか？

あつ、ああんつ！
恥ずかしい…
恥ずかしい、ですうつ！

貪欲マンゴ、
もうイキそうなんだから？
イかせて欲しいって
言ってみるよ？

つ、うぐう…イきたい…
イ、イかせて…
おマンゴ、イかせて、
ください…

クククツ…そう簡単に
イかせるかよ…

おい。どうしてこんなに
クリがビンビンに
勃起しちまったんだ？

…え？



説明するんだよ、
自分の口で。
どうした、ご主人様に
説明できないのか？

っ……そっ、それは…
できないなら、
ここで終わりにするぞ？

い、いやっ、待って、
待って下さい！
言います、
言いますからっ
やめないで、イ…
イかせて下さいっ…！！

寸止めを食わされた
優美の肉褌が
切なげにきゅっと
合わさった。

ゆ、優美のクリトリスが
勃起してるのは…

勃起してるのは？

ご、ご主人様におっぱいと
おマンコを…い、いっぱい
イかせて貰ったからですっ！

そり告白する優美のマンコは
俺に見られてる事もあ、り、
ずっとビクビクしながら
お尻に濡れそぼっていら、く。



まあ、ちゃんと言えた方か！
それじゃあ、ご褒美をやるう

ご褒美！
う、嬉しいです…！！

嬉しそうにする優美を見ながら
俺はクリトリスの皮を
上へと引っ張り
おもいきり剥き上げる。

ひあんっ！！
ご、ご主人様なにを…
あつ…あああああつ！！
らめっ、らめええっ…！！
クリトリス直接舐めちゃ
らめええっ…！！

剥き出しになった
勃起クリトリスを
俺は容赦なく舐めしやぶる。
ちゅくっ、ちゅばっ…
ちゅらっ…レロレロレロッ

んひいつ！ ああっ、あんっ
すごっ、すごいひいつ！
んあっ、あああああっ！
あっ、ああっ！ ああぐうんっ！

シッ
シッ

レロレロ、
レロレロ

あっ、あっ、らめっ！
強、いいいんっ！
あ、あああっ…
っあ、ぎっ、きひいつ！



どうよ？
ぢゅぢゅ…吸われて、
転がされて…
ぢゅぞぞぞぞぞぞぞ…！！

喘いでないで…ぢゅぱっ…
ちやんと…ずず…
イきたいですと…
レロロ…お願いしろ…

ひいつぐっ…
っ、ああああっ！
こんなの、はじめてえっ…
あっ、うくううっ！
それ、イクうっ…
もお…っあ！ ひっ！
らめっ、ああっ！
いつちやうううんっ…！！

あっ、あっ、ああっ！
イきたっ、んぐう
イき、たああっ、
イきたい、ですううっ！
クリトリスっ、でっ！
っ、くはああっ
イ、イかせ…
イかせて、下さいいっ！



んああつ、らめつ、
ああうつ...!!
イったばかりなのに、
んっ、あつ!!
また、おっぱい!!
んっ、んんくうっ!!

そんなつまんねえこと
するがよ!!

そう言つて片手を
下肢に伸ばし、
割れ目をなぞり...
くちゅっ、くちゅっ、
くちゅっ、くちゅっ、

ぬるる...
ぬるる...

ふあああつ!
ゆ、びいっ!?
んあつ、ああつ!
—緒は、はあつ
—緒は、らめつ!
ああつ、あつ、あつ
ら、らめ、あはあつ!
ら、らめ、あはあつ!
ら、らめ、あはあつ!

ハハハッ、びっしょびしょ
じゃねえか!
中に欲しくて疼いてたんだろお?

あつ、ひいつ!
かき混ぜちゃ、
ふあつ! あつ、
はあああんつ!!

このやらしい音が
答えだ。なあつ!

ぐちゅぐちゅ、
ぐちゅぐちゅ、
ぐちゅぐちゅ、



んひっ、
エツチな音っ!!
ああつ、あんんつ、
しゅごいいつ!

ぐちゅぐちゅ

っあ! だめっ、
イクっ、イクっ...
はああつ、
イ、イクううっ...!



カチンカチン



んっ、あああああっ！

イって敏感になつてゐる所に
羞恥を煽られた優美は
あつけなく絶頂を迎えてしまふ。

…ハア…ハア…おマンコ、
おマンコの中で、イっちゃつた…
んっ、ふう…キ、キモチい…

おい、誰が勝手にイっても
良いと言つた！



ひっ!!!
ご、ごめんさい
ご主人様っ!!!

絶頂の興奮も冷めやらぬなか
優美が怯えた目で俺を見る。

俺はいつて良いなんて
さっきは一言も言つてないぞ。
奴隷が主人の許可なく
勝手にいつて良いと思ってるのか？

ご、ごめんなさい、
ご主人様っ
ゆ、許して下さいっ、
だ、だから、
や、やめるなんて、
言わないで!!

いいや、ダメだ。
お前はもう一度
お仕置きが必要なようだ!!

あっ!!
あぎっ!!?

俺は片乳を強く鷲掴みにし、
膣に挿さった指を
さらに深く突き立てた。

あああああつ！
ご主人様らめつ、らめえつ！
イッたばかりなのに…んああつ！
あつ、あつはつ、あつぐううつ！

あつあつ

いっ
いっ

んっあああつ、あああつ！
激し、すぎいつ！
っあ！ あぐあ！
中も、おっぱいもおつ…
ふああつ！
らめつ、イクツ、
またイクラツ…

ググ
ググ

うおっ
うおっ



あ、いいっ、
イツクううっ……!!
ふっ、ああ!!
あっはあああんっ!!

ダ
ク
ク
ッ

また勝手にいつたなっ
勝手にイくなと
言ってるだろう!

グチユグチユ
グチユグチユ

アハハ、アハハ

あひっ、あああああっ……!!
か、勝手に……!!
いつ、いつでええっ
ごめんなさっ、いいいい!!
くはあっ!!
ご、ごめっ、あっ、
あっ、あああん!!





グチユツ、
グチユツ、
グチユツ、
ぢゅぽっ、
ぢゅらっらっ……

グチユグチユ
グチユグチユツ！
ぢゅるっ、
ぢゅらっらっ……

あうらんっ！
またっ、またああっ！
あっ、ああっ！
おかく、なりゅうっ！
あっ、あうあっ、
あっひいつ！ ひあっ！
あっ、あっ、
あつきやああんっ……

らめっ、らめええっ！
イった、もうイっただからあっ
だからっ、もう……っあ！
ひっぎいいん！

ひ
び
び

グツチユツチユツ
チユツチユツチユツ!!
ぢゅるぢゅるっ、
ぢゅるぢゅるっ!!

やんぱ
やんぱ

あつ、あああつ!!!
もうっ、あつ
イひたくなつ、
あつひいいいっ!!!

あつ、あつ!! らめっ
やめへっ、やめ、
へひいいいんっ!!
激しっ、おかしっ!!
がつ、ひゃあああつ!!
つああ!! ま、また、
またきちやううっ

優美が絶頂に
上りつめりてくる
その瞬間。



んあつ、あ…ハア…
ハア…はああ…

なかなかのいきつぷり
だったじゃねえか…
でも、まさかこれで終わり…
なんて思っていないよなあ？

そう言つと、優美はむしろ
チンポを入れて貰えんこと
思つたらしく…

…あ、あああ…
は、はいっ

だつたらほら、
ちやんとお願いしろよ

ご、ご主人様の、
おお、おチンポっ
優美に、優美に
挿れて下さいっ…!!



はあ？ ご主人様を
気持ち良くもさせてないで
もうチンポのおねだりか？
この、恥知らずが！

つご、ごめんなさい
ご主人様っ！！

：どうやらまだ
躰が足りないみたいだな。
おい。四つん這いになつて
尻をこつちに突き出せ！



っ!!!
はいっ、ご主人様!

あははは

すると優美はM奴隷らしく
嬉しそうに尻を上げ
四つ足をついた。
丸見えの下半身を俺に見せ
思い切り突き出す
優美の尻にめがけ
俺は手を振り上げると...

ばちんっ！

いひゃんっ！

尻を平手で打つと
痛そうな悲鳴が上がる。
戸惑う優美に
俺は手首を利かせ：
ばちんっ、ばちんっ

ひいっひいっ、
ひいっひいっ！？

この恥知らずの
メス犬がつ！
いっちよ前にっ、
ご主人様のつ
チンポをつ、
ねだりやがって！



ぽちんっ、ぽちんっ

blink

痛っ！...ごっ、
ごめんなさいっ
お許し、をっ！
っ、ああっ！
ご、ご主人様あつ...
許し、いひっ！

パツッ、パツッ

っんああつ...！
ひっ、あつ、んおっ！
はひっ！ あっ、
あつ、ああんっ...！

アッ
アッ
アッ

だんだんと、
優美の悲鳴に
喘ぎ声が混じり出す。

お仕置きされて
叩かれてるつてのに、
なに気持ち良さそうな
声だしてんだっ!

パチンツ、パチンツ

はあっ、あんんんツッ!!
ごめつ、なさっ!!
あうんっ!!
ああっ!!
ごめんなさいいつ

ごめんなさいだけじゃつ
分らないだろうがっ!
何に對して謝ってるのかっ
ちやんとつ、答えろっ!



おしつ、ああんっ……!!
お尻っ、を……!!
叩かされてるのに……!!
おまんこっ、
感じ、感じてえっ……!!

ひうんっ!
あっ、んんうっ
おまんこっ、キモチよく
なつてえっ、あんっ
ごめんなっ、
さい、いいっん!

バチンツ、
バチンツ

それだけじゃ、
ないだろおっ



バシッ。
バチンッ

あはあつ！
ご、ご主人様につ…
ご奉仕つ、
してないつ、のにい
あつ、ああつ！
おちんほねだつて
ごめんなさいいっ！

そうだ。奴隷ならちやんと
ご主人様のオチンポに
奉仕しろっ

ああつ、はいいっ！
おちんほにつ
ご奉仕させて
下さいいっ！

それを聞き俺は優美を
叩くのをやめると
勃起したチンポを
鼻先に近づけた。

ほら、啜えろ。
何をするか、わかるな？

あ、ああつ…ありがとう、
ございまあつす

バチンッ！

ああっ…!! んっ、む…
は、あむ、んっ
れろっ、ちゅ…んっ、
んふっ…ぶふう

ご主人様のチンポの
味はどうだ?

はあっ…ん、はいっ…
美味しいっ、ですっ
んっ、れろっ、れろっ…
んむ、ちゅ、むふ

クククッ、
チンポ美味そうに
しゃぶりながら
腰ゆらしやがって

らって、んむっ…
ご主人様のチンポ
早く、欲しい、
れふっ…はむっ、んっ

はむっ

早く欲しかったら
俺を満足させてみる

んむっ…あ、はいっ

んぶつ、んぶつ…
んぐつ、じゅずつ
ぢゅぽつ！んむ、
ぐつ…じゅるるつ！
じゅつご…んぐつ…
くぶつ、くぶ…じゅつ
んつ、んつ…
じゅごつ…じゅごつ…

形だけの幼稚なフエラだな…
それで俺がイけると
思ってるのか？

しゅ、しゅみま、
ひえん…ん、ぢゅつ
ぢゅううつ…！
はつ、んつ、ふんむつ
じゅつ…ぢゅぽつ、
ぢゅつ…れるつ
れるる…ん、ぢゅ…
ぐぶぶ…ふ、ふう…
んつ…じゅぽつ…
じゅぽつ…じゅぽつ

しゅん



優美は懸命に試行錯誤したが、やはり俺がイける程ではない。

おいおい、そんなんじや
ご主人様は
いつまで経っても
満足しねえぞ

あむっ、んふう…
じゅるるっ！
んぷっ、んふうっ…
んっ、はあっ

もっとなんと
しゃぶれ下手くそ！
舌を添えてしつかり
奥まで啜えるんだよ！

んっ、ぷっ…
ずずっ…ご、え…
んぐっ、んふう…
っ、ぶっ、
んっ、んっ…

そんなんじやイけねえよ。
もっとなんと出し入れしろ。
歯あ立てるなよ

ぐっ、ぶっ…
ぐっぶ…
じゅっ、ぶ…
ぢゅっく…フウ、
フウ…ぐぶ…
んんっ

14:20

キラリ

優美の稚拙で必死な
フエラを味わいつつ
俺は部屋の時計を
横目で確認する。

(そろそろ時間だな...)

するとタイミング良く
部屋のドアが開き
一人の男が部屋へと
入ってきた。
優美には内緒で、
俺の仲間をひとり
今日の調教に
招待していたのだ。

んっ…んぶらっ！？

突然の来訪者に驚く優美。
もちろん俺への奉仕も
止まってしまおう。
俺の仲間、サプライズゲストに
優美はとっさに体を
隠そうとするが…

おらっ、
よそ見しないで
ちやんとご主人様に
奉仕しろっ

んえ？ れ、れも…

俺の言うことが
聞けないのか？
おい！

ふぶっ…ご、
ごえんなひや…ん、
ぐ…ぐっぶ…くぶっ、
くぶっ、ちゅぶっ…

喉を突くように
腰を動かすと
フェラを再開せざるを
えなくなった。

ぐぶっ、ぐぶっ、
ぐぶっ…フウ、フウ…
んっ、んっ、んっ…
じゅるる…じゅ、ぶ…
じゅこっ、じゅこっ、
じゅこっ、じゅこっ

そうだ、しっかり
奉仕しろよ

んっ、ふ…ふあ、
ふわあいい…

すでに命令に
逆らえない優美は、
裸を隠すことなく
フェラを続けている。

そのままだ…
ケツを上げる…

ん…ふ…？

背後の気配に戸惑いつつ、
優美は俺の言う通りに
尻を持ち上げる。
それを合図に仲間の男は
チンポを取り出し…

いゅほ
いゅほ

ふっ!?! うあっつ、
あああああつ!

ちゅんちゅんちゅん
ずぶちゅんちゅん...

はっ、がっ...
か、はあああうっ...!

はっ、あはっ、
はっ、はっ...
あ、うう

**ズ
ズ
ズ
ズ**

優美が部屋中に響くほど
ヨカリ声を上げた。
散々チンポをお預けされた
不意打ちの快楽に
時が止まったように
優美は硬直する。

おいフェラが
止まってるぞっ
しっかりしゃぶれっ

はっ、あっ...
ご、ごめんなさう...

はっ

しかし、優美が
謝ろうとした瞬間...

あぁっ…パンツ…!

あぁぁぁあつ!

パンツ
パンツ

あつ、あひつ…
ふぁあぁあつ!
パンパンつ、だめえつ
うぁあんつ! あつ、ひつ
んあぁあぁあつ

我慢できずに
仲間がピストンを
開始する。
ぱちゅつ、
パンツパンツ

ビクッ

フッ

フッ



ぱちゅっ、ぱちゅっ、
ぱちゅっ……!!

110
110

いいか?
またさつきみたい
にご主人様より先にイつたら
お仕置きだからなっ!!

いひゃっ!!は、
ぶぶっ、んんっ
らめっ、んあっ
んっ、ふ!!ぐぶっ
ふっ、ふわっ、
ら、らめえっ!!

んっ、はひっ!!
あっ、あんっ!!
わかつ、わかつ、
まひたああっ
じゅぶぶっ!!んっ、
んっ!!じゅるるっ
ぐぶっ、ぐぶっ!!
んっ、ふ、ぶふうっ!!

だが、言いつけを破った
結果を知る優美は
マゾとしての欲求に
腫を揺れ動かしていた。

110
110

ぱちゅっ、
パンパンパンパンッ！

ハッハッハッ
ハッハッハッ
ハッハッハッ

んっひいっ！
ハッ、ハッ、ぎもひっ
ふわあっ、
んっひやはああんっ！！

口を緩めるな！
俺のチンポに集中しろ！
俺の言いつけを
守れないのか？

ふあっ、ふあいつ、
しゅみま！
あっぐう！
ひやむっ、んっ、
んむぐっ！

ひあああああっ...!!
はげひっ、おチンポっ！
んあっ
は、激ひいっ！
ふあっ、あああっ

どうやら優美の特性に
仲間も気づいた様だ。
いじめるほど締め付ける体に、
仲間も夢中で腰を振り始める。

ぱちゅぱちゅぱちゅ
ぱちゅぱちゅぱちゅ

うあああっ！んひっ
あんっ、あっ...おチンポっ
おチンポ早いっ！
んああっ



アッ

ハッハッ

パツパツ
パツパツ
パツパツ

おらつ、またご主人様への
奉仕が疎かになつてるぞつ
しつかりしやぶれつ

あつ、あつ...
ごめんさいいつ
んつ、んむつ、じゆるつ
んぐつ、んつ...
んぶつ、ずずつ

ご主人様より先に
イツたらどうなるか
ちやんと分かつてるよな?

わかつ、
分かつてますうつ!
あんつ! んむつ、
ぢゆるるつ

おはつ、おはつ





ふあああつ！
らめつ、らめえつ！
あつ、んんつ！
ああつ、あんつ！
そんなにつ、ああつん
突かれたらつ、
ひんつ、ひああつ

パンパンパンパン！

チンポご奉仕つ、
出来ないつ！
あひつ、あああつ！
だからつ、んひつ
つかつ！
突かないでええつ！

パンパンパンパン！

ん

ん



あああつ!
らめつ、らめつ
おチンポらめなのつ!!!
ひぐつらめつ!!
あひつ、うああつ!!!
いつちやうつ、
いつちやうつ!!!

ぎゅ
ぎゅ
ぎゅ

ハチエツ
ハチエツ
ハチエツ

もう、イきそうなのか?
ご主人様はまだまだ
全然イけそうにないつてのに
自分だけ気持ち良くなるなつ

ん

ビュウウー
ビュウウー

ク
ク
ク

ド

カ





ああつ、あひつ！
イツチャ、あひつ！
イツチャやううつ
ご主人様あつ、
ご主人様あつ！
いくつ、いくうつ…！
ご主人様あつ、
ああああああつ！

ドプッ
ドプッ

ドプッ

いあああつ！
中につ、中に出てつ…！
らめつ、らめええつ！

ブルッ、ブルッ、
ブルッ

ハッ

ドプッ

ドプッ

ハッ

んっ…あ、はああ…っ…

まさか俺以外の男に
中出しされて、
俺より先にイクなんてなあ…

っあ、あっ！
ごめっ…ごめ、なざっ…

ダメだ、許さない…お前には…
もつとキツいお仕置きが
必要な様だな…

…あ…あああ、ご主人、様…
あ、ああっ、お、お願い、
お願いしますっ！
ダメな優美に、
もつとお仕置きをつ
もつとキツいお仕置きを、
して下さいっ！

ムッ


ムッ

すつかりマゾ奴隷へと堕ちた優美は
被虐の期待に歪んだ笑みを浮かべ
潤んだ瞳で俺に哀願するのだった…。


それから俺達はホテルの時間いっぱいまで
3P調教で優美を快樂に浸らせた。
最終的には何度もチンポと中出しをねだる
恥のカケラもない本性を晒すほどに...。
その後、支配される被虐的なセックスに
ハマった優美は、俺の性奴隷として
その後も旦那に内緒で関係を続けている。
次の調教計画は、そうだな...



もつと仲間を呼んで輪姦プレイなんか
良いかもしれないな、クククッ…。




それから俺は優美を何度も呼び出し
ことあるごとに調教を重ねてきた。
普通のデートなんてものはない。
あるのは爛れた性欲の捌けあい…。



非日常を欲する優美は、
やがて場所を問わず
発情するようになっていた。

そう、パブロフの犬のように、
俺を見れば快楽を欲する、
いやらしい雌犬に成り果てたのだ。



そして俺は今、仲間を引き連れ、
優美の屋敷に上がりこんでいる。
これは、旦那との生活スペースを
侵されることを拒んだ優美への
『お仕置き』だ。
このワードに優美は逆らえない。
唯一、この雌犬に残された日常も、
別の男の精液の匂いで
染め上げてやろうというわけだ。

使用人には、
お暇を与えておきました。
今日は電気工事が来るだけだから、
私1人でも大丈夫だと伝えて…

そうか、上出来だ。なら早速、
お仕置きの時間といこうか…

『お仕置き』というワードに、
優美の顔に緊張の色が浮かぶ。
だがそれ以上に、抑えきれない
条件反射が、スカートの中の
内股をもじもじと擦り合わせた。



……はい、ご主人様

生活臭の染み付いた寝室で、
優美は手を震わせながら、
本能のままに服を脱いだ。

ククッ…もうすっかり
準備はできてるじゃないか…

ドキ
ドキ

最後に脱いだショーツに伸びる
白く濁った粘液の糸を見られ、
恥じらいと悦びが混じった顔で、
優美は口元を震えるように歪ませる。



それを取り囲むように
立つ男たちが、
偽装用の作業つなぎを
脱ぎ去った。

え？あ、あの、
ご主人、様…

服を脱がない俺に
優美が不安を表す。



ククツ…言ったはずだ。
今日はお仕置きなんだよ…
お前が犯される姿、
きっちり記録してやるからな…

俺がハンディカムを構えると、
疑問符を浮かべたままの優美は、
夫婦の匂いの染み込んだベッドへと
見知らぬ男たちに押し倒された。





あ、ちよ、
ちよつと……
あ……ぐ、
ふうっ……!!?

ぎっ……ひ、あ……あ……
そ、こ、はあ……あ……
あ……ぐ……うんっ……!!

マンぐり返しの
体勢にさせられ、
1人がいきなり
挿入する。

ひっ、ぐううっ……
……え？
……んっ、あっ！
そっちは……!!

驚く間もなく、
もう1人が背後から、
開ききったアナルへ
体重をかけた。

ずりゅらっ

ミチミチミチ……

いっつ、あ、ああつ……!!

ククツ、ケツまでズツポリだ……
やってみたかったんだろ?

くつ、ひゅう……でも、
まだ、心の準備が……

やってみたかったかどうか
聞いてるんだよ! どうなんだ?

は、はいっ! ご主人様に、
ア、ア、アナル……お、犯して、
欲しかったですうっ!

ほお、そうかい……
俺のチンポで、か?

はいっ、はいっ……初めては、
ご、ご主人様のおチンポ……
んっ、あああつ……!!

みち

みち

ニ

ニ

ニ



ほら、そんなこと言うから、
逆に火をつけちまった！

あつ、あ、あつ...

ご、ごめ、なさ

はつ、ぐつきゆ

うううつ...!

どうだ、苦しいか？

それともキモチいか？

どうなんだ、ん？

すぐっ！すぐっ！
男たちの交互ピストンが、
激しく何度も優美を押し潰す。

や、やあ！アツプで...

あつ、ふつ

はつ、ぎひいつ...!

はつ、ぎひいつ...!

ズルッ

ズルッ

ぎ、ぎもちい、
れふつ...んぐつ、
ぐふうつ...で、でも、
ご主人、様、
がつ...よかつ...
あ、が、はあつ!

どうなのか
聞いてんだよ。
答える。
二穴挿入は
どうなんだよ？



クククッ！そんなに俺のが
欲しいのか？でも、お前が
いけないんだぜ？当たり前
のように貪れると思ってるから！

そ、そんな…あぐっ…ご、ごめ、
ごめんな、さっ、ああっ！ご、
主じ、んんっ…だめっ、イクうっ

勝手にイクんじゃねえ！

あひいっ…ず、ずびばっ、ぜ、
んんっ、んっぐううっ…！！

ズニ
ズニ

…そうだなあ、ご主人に従順な
証を見せてくれたら、俺のをくれて
やらなくもない…欲しいんだろ？



ツナギのジッパーを下ろすと、
食い入るように股間を注視する優美。

あ、あつ…ほ、ほじいつ…んっ、
ぐっ…ご主人様の、おチンポおっ

はっ、みつともねえ顔しやがる。
旦那に見せねえ雌の顔…この動画、
旦那に送りつけてやろうか？

い、いやあつ…それだけは…
それだけは勘弁してくださいっ

ならますます俺の言うことを聞か
なくちゃな…ケツもマンコも締め、
先にそいつらをイカせる。いいな

びゃ、びゃいつ…ん、ぎぎっ…
っひ！くっ、くっひいつ…！！





ブクブク...ブクブク...
ピクピク、ピクピク...

…うあ…あ、ぶっ…
…ぷはあ…

ククツ、本当にみつともねえ顔…
清楚さのカケラもねえ…旦那が
見たら卒倒するぜ、クククツ

…あ…ありが、
ごぎ、ましゅ…

ド
ボ
ユ
ッ

レ
ッ

レ
ッ

褒めてねえ！勝手に
イキやがって。
罰としてマジで
旦那に送るぞ？

い、いや、ごめんなさいっ…
それだけは、本当に…



ここまでしてまだ日常が大事か？
まだわかってないようだな。
お前の本当のご主人様は誰か？

そ、それは…ト、トシさん…
トシさん、です…私の、ご主人様

足りねえなあ…言いつけも守れず、
旦那との生活を庇い…その償いには
なくんにもなつてねえ…

そ、そんな…な、何でも…
何でもしますから、見捨てないで…
私を、ど、奴隷でいさせて…

ククツ…奴隷だけで満足かよ？

い、いや…ご主人様の、お、
おチンポで…イ、イ、イカせて、
ほ、欲しい、です…

● REC

…もつとだ。
もつと俺をいい気分になせれば、
こいつをくれてやらなくもない

萎えかけたチンポをシゴいて見せる。
すると優美は聞こえるほど大きく
喉を鳴らし、目を泳がせた。

なぜ俺に頼った？
なぜこちら側に踏み込んだ？
全部カメラに吐き出してみせる

…あ…うう…ま、まず、
主人に、満足していなくて…
その…高齢だし、先に終わって、
最後まで、してくれないですし…

…それから？

● REC



そ、それから…わ、私、
めちやくちやに、して欲しいほど…
その、溜まってしまつて…

ククッ、一度味をしめたら、
どハマりしちゃつたわけだ…

…はい…ご主人様のプレイは、
私の想像を、遥かに超えていて…
こんなに、何回もイカされたの、
私、初めてで…も、もう…

…もう？ なんだ？

● REC

俺はシゴいて勃起させたチンポを
優美に向ける。

も、もう……ハア、ハア……う、
もう……ハア、ハア……う、う……

どうした？ 言えよ

カメラの中で優美の視線が俺の
チンポに釘付けになる。
勃起したそれを見て、条件反射で
溢れる唾液を飲み込んだ優美は、
ついに本音をカメラの前で叫んだ。

おチンポ……ご主人様の、おチンポ、
ほ、欲し、ずっと欲しいですっ！
おマンコに毎日挿れて欲しいっ！

ククツ、そうかい……なら、
カメラに向かって誓うんだな

REC

は、はいっ！も、もう、主人の
フニヤチンなんて欲しくない！
私、ご主人様のお
おチンポじゃないと、
もう濡れない体なんです！

私、奴隷でいい！ご主人様の、
奴隷がいい！どうか、どうか！
ご主人様のおチンポで、私の
おマンコをかき回してください！

クククツ、上出来だあ！つたく、
随分とおしゃべりになったもんだ。
だがそこまで求めるなら、答えて
やらなくちゃならねえなあ！

俺はカメラを持ったまま
優美の前でようやく服を脱ぎ…

ほら、お望みのチンポだ。
カメラに映るように自分で挿れる。
それを旦那に見せつけるようにな

● REC

● REC

ぬぶちゅ…と濡れそぼったマンコが
音を立て、チンポに絡みつぎながら、
ゆっくりと見せつけるように、
肉の壺は俺を啜え込んでいく…。

っあ…アハアっ…アハ…アハ…
ぜ、全部、入りましたあ……

…ハア、ハア…
…かしこまり、
ました…んっ…
んふ、んん…

じゅぽん

「じゅぽん」と
目タレをすすり、
早い吐息の優美が
俺の上を跨がる。

ず ぽん ぽん ぽん

恍惚と狂気のおもむきを浮かべ、優美は
たまらない様子で腰を振り始めた。

んあ…あ、
あううっ…はひゃあ、
キモ、チい…んっ、
んん…んああ、
も、もお、
いつちやいそお…

誰が腰振って
いいって言った？
チンポ抜かれてえのか？

ぬ
ぶら…

へっ、ひっ…
す、すみません、
ごめんなさい、
ご主人様っ…

振るならもっと
ゆつくりだ。
自分がどうなってるか
実況しながら
カメラ視線で…
できるな？

は、はい…
かしこまりました、
ご主人様…



…ん、ふ…はああう…
お、奥まで、
ご主人様のおチンポお…
と、届いて、
ますう…う、ううんっ

クククツ、いいぞ。
もつと伝える。
旦那と比べて
どうなんだ？ん？

…んはあ…ハア、
ハア…すっごい、
硬くてえ…カリも、
張りがあつて…
んあつ…最高の、
おチンポ…ハア、

ハア…あの人の、
小指チンポなんて
…ん、んうっ…もお、
感じられないくらい…
ああつ、ぎ、ぎもぢい…

言葉を重ねる度に、
優美の表情は
恍惚さを増してゆく。



ふん、ダメな奥さんだ…ほら、
カメラに向かって謝ってみるよ？

ハア、ハア…ごめんなさい…私…
もお、あなたに…戻れない…
こんなキモチいの、私いつ…

あつ、あつ…
腰が、止まらないっ…
はっ、はひひ…
あなたの粗チンとは、
全っ然…ああつ、イイっ…!!

快樂に顔が歪みきつた優美は、
言いつけも忘れ腰を打ち付け始めた。





んあつ、あああああつ…
あつひやすすすすんつ!!

ギツチギチに肉棒を締め付け、
ケモノさながらの声をあげ、
優美は1人で絶頂を迎えた。

…だはっ…ハア…ハア…ハア…
ぎも、ちい…ご主人様のチンポ…
ま、また、イっちゃいましたあ…

ああ、許可なく勝手に、な

あ…ご、ごめんなさい…

まあい。追加のお仕置きだ。
俺1人が楽しむのも悪いしな…

そう言うと、
先ほどの挿入役たちが
ベッドに上がってきた。

…え？…あつ





っ……は、はいっ

お前のケツマンコを
掘ったチンポ、
その口で綺麗にしろ。
できるな？

……!!?

フエラで掃除するんだよ。
それができたら、
俺が下から突いてやる

困惑にご褒美が勝った優美は、
息を止め、自身の汚物の香りが漂う
チンポを、自らの口に運ぶ……。

ん、ぶっ……お、おえ……んむうっ……
じゅっ、じゅくっ……か、はっ……
ふっ、んっ、んぶっ……じゅじゅっ

クククッ、できるじゃないか！
ほら、もう一本も忘れるなよ？

ふ、ふわい…あむ、ん…
ぐぶっ…じゅじゅっ…じゅ、
じゅ、じゅぶっ、じゅぶっ…

どうだ？ 美味いか？
俺より若いチンポも
いいもんだろ

んっ、ふあい…
チンポ、おいひい
…どっちも、
ビンビン、硬くて…

そうだ…お前が好きなのは俺の
チンポだけじゃねえ…認める…
お前はチンポ好きの、淫乱人妻
なんだよ…クククッ

ふわい…わらひは…じゅじゅ…
チンポらしいしゅき…チンポ人妻…
れふう…じゅ、じゅほ、じゅっほ



REC



クハハッ！
上出来だ！旦那の
粗チンじゃなきや
誰でもいいんだ、
そうだろう？
言つてやれ！

そ、そうれふ…
んぶつ、ん、ふ…
あの人の、チンポ
以外なら…全部、
らいしゆき…
れも…一番は…

ククッ、
どのチンポだ？
え？

一番は、今、
マンコに入ってる、
ぶつといチンポ…
…んあつ！

従順さを示そうと
する優美に、
たまらず俺は
下から突き上げた。

ひゃっ、ぶふうっ…
う、うれび…
ご、ご主人、
しゃまあんっ…！！

ぱちゅ、ぱちゅ、ぱちゅ…
チンポを啜えたままの優美が喘ぐ。

ふわあつ、ああおんつ…んひゃあ、
らめえつ…ああつ、いひいつ…
いぐつ…うれひつ…ごまじ…
はわあつ…いぐうつ…!



ふん、早漏マンコが…
よくできたご褒美だ、イケよ!

は、はいいつ、ああ、ありがとう、
ごじやまあすつ…ひつ、あああ…
あ、ひいつ、いぎ、ましゅう!

● REC

ふんぶつ...ふつ、あ、ひやつ...
ふあ、い...あふあああんっ!!

チンポを啜えたまま絶頂する優美。
待ち望んだ快楽に破顔し、
それに耐えるように啜えたチンポを
ものすごい勢いで吸引する。

ぢゅぢゅ...ぐふうっ...すぢゅ...
んふ、んふう...ぢゅるるるるる...

ククツ、気でも狂ったみてえだ!
いいぜ! チンポ人妻にはお似合い
の面構えだよ! ククククツ...





ぐふっ…あひっ…!!

そらっ、エロい顔のご褒美だ!

あっ、ぐっひいっ…
嬉し…んあっ、あっ、
ああっ!

やっぱり最高の雌奴隷だ、お前は。ほら言えよ、どこに出して欲しい

んあっ、はいいっ!!
な、中あ、ご主人様の精子、マンコの中にい

ククッ、妊娠しても知らねえぞ

ああっ、イイっ!!ご主人様なら、あっ、あっ、あっ、ああんっ!!
妊娠してもいいから、ご主人様の精子、おマンコが一番奥に…っ、
ああっ!奥に出してええっ!!

…っしりせげぬ、りせげぬ

ひっ、ああっ、ぎもぢっ…
んっ、んんぐううっ…!!!

快楽に耐え切れない優美は、
恥を隠すようにチンポを咥え、
もう片方の手でも激しくシコく。

パン、パン、
パン、パン、
パン!

フッ、そうだ…チンポは平等に
イカせてやらなくちゃ…随分と
いい子になつたじゃないか!

ぶあつ、ああつ、は、はいんつ
…お褒めのお言葉、ありが、つあ!
はっ、がっ、あが、あああんっ!



あああつ、イ、ぐううつ…!!
ごまじ、ああつ…イクつ、ああつ!
あつ、あつ…イぎ、ますううつ!!

ククツ、またかよ早漏マンコ!
出してやる、きつちり締めろ!

ぬちゅっ
ぬちゅっ
ぬちゅっ

ちゅっ
ちゅっ
ちゅっ

悦びの声をあげ、
優美は両手で
2本のチンポを
激しくシゴいた。

はひいつ…い、ぎいいつ…
つああ! 精子いつぱい、中に…
ふあつ! あつ! 私にいつぱい、
ブチまけてくださいいつ…!!



パンパンパン
パンパンパン！！

あああああつ！
ありがとう、
ごさいまああ
あああつす！！

苦痛にも似た幸福の
叫びが夫婦の
寝室にこだまし、
優美は身を絞った。



痙攣と共に優美が全身を硬直させ、
両手のチンポを硬く握った瞬間、
その姿は上から下から、滴るほどの
白濁に染められていった。



…っ、あ……あひゃあ……精子、
いっぱい……じゅる、ちゅぱ……
ありがと、ごじゃい、ましゅう……

ククツ、すっかり精液臭い部屋に
なっちまったなあ……これでお仕置き
完了だ。お前はもう24時間、俺へ
の欲望から逃げることはできない

ちゅるる
ごめい

フッ
フッ

フッ

チ

チ

ちゅるる
ごめい

は、はいい……ご主人様の匂い……
いつでも感じられて……私、24時間、
あなたの奴隷でいられますう……



とろけた瞳のまま、零れる精液を
丁寧に舐め続ける優美は、
このお仕置きの本当の意味を
理解できていない...。
染め上げた雄の匂い...
そして撮影したビデオ...。

現実に戻ろうとしても戻れない
材料は、俺の手の内にある。
これほどの逸材、最高の性奴隷...
当然、俺もまだ遊び足りない。
どこまでも墮としてむしゃぶりつく
してやるさ...クククッ...。

